

令和7年度

水産多面的機能発揮対策活動報告書

令和8年3月

福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会

## 目次

I. 福井県における水産多面的活動について	1
1 水産多面的活動とは	1
2 福井県における活動組織一覧（海）	2
3 福井県における活動組織一覧（川・湖）	3
II. 令和7年度活動事例報告	4
① 安島マリンプロジェクト（坂井市）	4
② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）	7
③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）	12
④ 浜地里海を育てる会（坂井市）	17
⑤ 三国沖の海を見守る会（坂井市）	20
⑥ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）	21
⑦ 日野川環境整備協議会（越前市）	24
⑧ 河野川清流保存会（南越前町）	29
⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）	32
⑩ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）	40
⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）	45
⑫ 世久見海士組合（若狭町）	48
⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）	52
⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）	56
⑮ おおい町大島地区の海を守る会（おおい町）	59
⑯ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）	63

# I. 福井県における水産多面的活動について

## 1 水産多面的活動とは

漁業生産活動が果たす水産物を供給する役割以外に、水産業や漁村が有する、地球温暖化防止に資する藻場の保全、水質の浄化、生物の保護、教育学習など、豊かな海や川・湖を育む大切な活動です。

### 活動組織

県内では、海で10団体、川・湖で6団体の組織が、国、県、市町の支援を受けて水産多面的活動を実施しています。活動組織では、漁業者とそれ以外の方々が組織し、活動区域や活動内容等を市町と協定し、計画的に活動しています。



### 福井県水産多面的機能発揮対策地域協議会

協議会では、水産多面的活動に必要な資金を国、県、市町から交付を受け、県内で活動する活動組織に対し配分するほか、活動が円滑に進むように、指導、調整、連絡等を行っています。

この報告書では、令和7年度に活動した県内16組織の取組内容の概要を紹介します。

## 2 福井県における活動組織一覧（海）

No.	市町	組織名称	主な活動内容
1	坂井市	安島マリプロジェクト	藻場の保全、漂着物等の処理
2	坂井市	崎生態系保全活動グループ	藻場の保全、漂着物等の処理
3	坂井市	梶生態系保全活動グループ	藻場の保全、漂着物等の処理
4	坂井市	浜地里海を育てる会	漂着物等の処理
5	坂井市	三国沖の海を見守る会	海上監視
6	敦賀市	敦賀湾磯焼け防止会	藻場の保全
7	若狭町	世久見海士組合	藻場の保全、漂着物等の処理
8	小浜市	小浜市海のゆりかごを育む会	藻場の保全、漂着物等の処理
9	おおい町	おおい町大島地区の海を守る会	藻場の保全
10	高浜町	若狭高浜ブループロジェクト	藻場の保全



### 3 福井県における活動組織一覧（川・湖）

No.	市町	組織名称	主な活動内容
1	勝山市	勝山九頭竜川環境ネットワーク	内水面生態系の保全
2	越前市	日野川環境整備協議会	内水面生態系の保全
3	南越前町	河野川清流保存会	内水面生態系の保全
4	敦賀市	敦賀河川を守る会	内水面生態系の保全、河床耕耘
5	若狭町	魚達の住みよい川・湖づくりの会	内水面生態系の保全
6	小浜市	南川ラインレスキュー隊	内水面生態系の保全、ヨシ帯保全



## Ⅱ 令和 7 年度活動事例報告

### ① 安島マリンプロジェクト（坂井市）

#### 1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約 20,000 人の都市である。安島マリンプロジェクトがある安島地区は人口約 850 人で、地域の主要な産業は漁業である。

地区には景勝地として有名な東尋坊があり、毎年多くの観光客が訪れている。

平成 9 年 1 月 7 日、ロシアタンカー船ナホトカ号の船首部分が座礁接岸した地区でもある。

#### 2. 漁業の概要

安島マリンプロジェクトの主な構成員は、地元安島区民と雄島漁業協同組合安島支所に所属している漁業者である。雄島漁業協同組合安島支所の主要な漁業は浅海漁業であり、主な漁獲対象魚種は、越前ウニ、ワカメ、サザエ、アワビ、アマダイ、アジ、ヒラメ等である。

近年、漁師も海女も高年齢化が進み、後継者不足が専らの問題である。しかし、まだ少人数だが数年前から新人海女たちが積極的に活躍をし始めたことで、幅広い年代の交流をすることにより、これまでの変わらない活動を継続することや新しい目線からの発想などで、この先継続して豊かな海を守っていくことを期待している。

#### 3. 活動組織の運営

##### (1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日発足

(活動としては平成 22 年 4 月 9 日発足の環境生態系保全事業から継続して 13 年目となる)

##### (2) 構成員の数と形態

構成員 384 名（内訳：漁業者 34 名、漁業者以外 350 名）

##### (3) 活動延べ人数

312 人

##### (4) 対象地域での活動歴

当地区は東尋坊や雄島のある観光地でもあるため、区民総出の海岸清掃を年 2 回（春・秋）30 年以上前から実施している。また、環境生態系保全活動として平成 22 年度から区が主体となって活動を始め、平成 25 年度から水産多面的機能対策支援事業に活動を切替えて継続して実施している。

#### 4. 活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

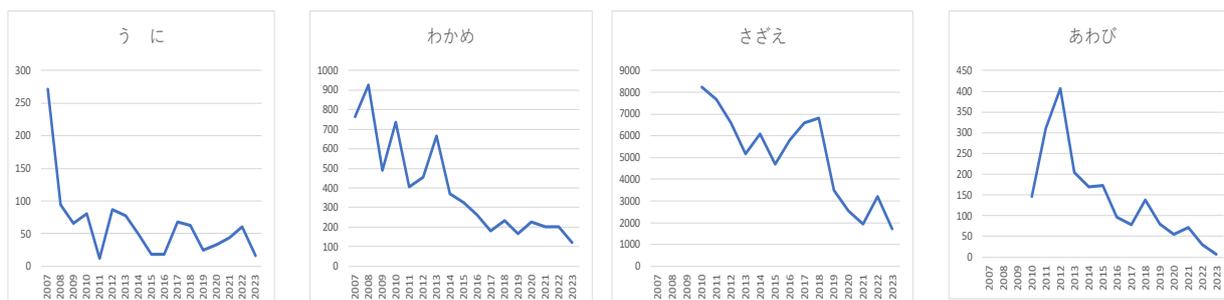
##### (1) 活動場所



##### (2) 資源の課題

昨年引き続き温暖化の影響か今年も例年に比べ水温が高く、磯焼け現象が起き、岩のりの生育が悪く不作であった。それが原因か海藻の生え方もよくないため、エサ不足でウニやサザエ、アワビなどの収穫量が激減した。

これまでの収穫高（収穫量kg）は次のとおり。



## 5. 活動の実施状況

実施年月日	活動内容	参加人数（人）
R7. 4. 12	海岸清掃作業	161
R7. 5. 27	ムラサキウニ駆除作業	22
R7. 5. 28	ムラサキウニ駆除作業	22
R7. 5. 30	小学生わかめ干し体験	10
R7. 6. 18	流域における下草刈り作業	24
R7. 9. 1	岩おこし作業	10
R7. 9. 2	岩おこし作業	10
R7. 10. 8	岩おこし作業	12
R7. 10. 9	岩おこし作業	12
R7. 10. 22	流域における下草刈り作業	19
R7. 10. 23	ムラサキウニ駆除作業	13
R7. 11. 5	岩盤清掃作業	12
R7. 12. 20	モニタリング作業	2
R7. 12. 21	モニタリング作業	2



ムラサキウニ駆除の様子



海中の石を手作業で返す様子

## 6. 今後の課題と計画

漁業者の人数の減少傾向が続き、海中作業ができる人が減ったため、作業が思うほどはかどらずに時間がかかり負担となっている。

これから先も一気に人が増えるとは考えにくいので、作業の場所や範囲を細かく指定して回数を増やすなどして負担軽減できるような対策を取っていけるように心掛けたい。



流域における下草刈り作業



わかめ干し体験をする子供たち



海岸清掃の様子

## ② 崎生態系保全活動グループ（坂井市）

### 1. 地域の概要

崎生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属しており、主要な漁業は海女による浅海漁業が中心であり、主な漁獲対象魚種は、ウニ、サザエ、アワビ、ワカメ、岩のり、天草等で年間を通じて藻場の恩恵を受けている。ウニは高級珍味の「塩うに」となり、ワカメは「もみわかめ」として、名産品として販売されている。

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 環境・生態系保全対策活動組織の発足年月日

平成 22 年 3 月 5 日 設立総会

#### (2) 水産多面的機能発揮対策活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

#### (3) 構成員の数と形態

構成員 109 名（内訳：漁業者 14 名、漁業者以外 95 名）

#### (4) 活動延べ人数

平成 23 年度	704 人	平成 24 年度	645 人
平成 25 年度	412 人	平成 26 年度	582 人
平成 27 年度	574 人	平成 28 年度	521 人
平成 29 年度	543 人	平成 30 年度	541 人
平成 31 年度	499 人	令和 2 年度	369 人
令和 3 年度	347 人	令和 4 年度	351 人
令和 5 年度	306 人	令和 6 年度	264 人
令和 7 年度	215 人		

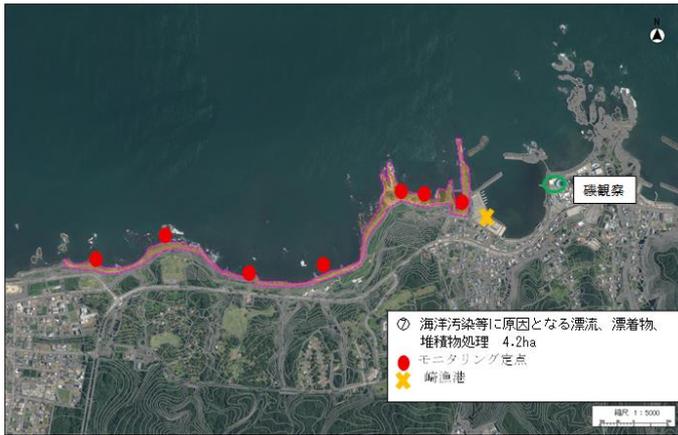
#### (5) 対象地域での保全活動歴

崎地区では、平成 22 年度から「崎生態系保全活動グループ」が主体となって、保全活動の計画づくり、モニタリング、及び藻場の岩盤清掃、浮遊・堆積物の除去、流域の植林活動等を実施してきた。

### 3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

#### (1) 活動位置（崎地先藻場、面積：4.2ha）





#### 4. 活動の実施状況及び効果

##### (1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R7. 4. 1～ R8. 2. 28	モニタリング	状況の確認 (コドラート法)	4名	4回実施
R7. 4. 1～ R8. 2. 28	保全活動	有害生物の除去	16名	2回実施
R7. 9. 20	保全活動	海底耕うん、岩おこし	5名	1回実施
R7. 10. 18	保全活動	岩盤清掃 (のり畑清掃)	9名	1回実施
R7. 4. 1～ R8. 2. 28	海洋汚染等の原因 となる 漂流、漂着物、堆積 物処理	漁業者等が行う砂浜、海 底、沖等の廃棄物等処理 (海岸・渚帯の清掃)	125名	2回実施
R7. 7. 12	保全活動	教育と啓発の機会の 提供 (磯観察)	40名	1回実施
R7. 4. 1～ R8. 2. 28	保全活動	流域の植林 (流域の下草刈り)	65名	2回実施

延活動人員 264名

##### (2) 活動内容写真

##### 「教育と学習の機会 磯観察会」



越前松島水族館様のご協力



活動中の小学生

「モニタリング」



海藻等の定点モニタリング



海藻等の定点モニタリング

「岩おこし」



「岩盤清掃」



のり畑清掃中



のり畑清掃中

「漁業者等が行う砂浜、海底、沖等の廃棄物等処理」



海岸清掃・ごみ拾い(清掃前の状況)



(清掃活動中)



清掃活動中



清掃活動中



清掃活動中



清掃後の状況

### 「流域の植林」



下草刈り活動中



活動中

### (3) 広報活動

「水産多面的機能発揮対策」において、海の現状、藻場の大切さ、海の環境等を知ってもらうため、各活動前では回覧版等による広報活動を行い、地区住民には小学生以上の全員参加を呼びかけた交流活動で情報発信をすることが出来た。

### (4) 活動内容の特色

雄島小学校の皆様にも協力していただき、松島水族館前の海岸で「磯観察」活動を毎年実施。小学校からも喜ばれ、大変嬉しく思っている。

#### (5) 効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場の環境は活動前と比較すると随分と向上し、ウニ、サザエ等が育成しやすい環境となってきた（但し、上記生物の生育は、海中の水温に影響されやすい傾向にある。）。

効果については、浅海漁業の漁獲量で増加した物もあれば、減少した物もあり、若干増加の傾向にあり、活動効果が出ているものと思われる。

#### 5. 今後の課題と計画

地域住民の共有財産である藻場においては、今後も環境保全の維持管理に努め、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、交流の場を広げていくとともに、「教育と啓発の機会の提供」活動も継続して実施していく。

### ③ 梶生態系保全活動グループ（坂井市）

#### 1. 地域の概要

坂井市三国地区は、福井県の北に位置し、人口約2万人の町である。当グループがある地区は、東は浜地地区との境界である今津川付近から、西は崎地区との境界である越前松島水族館付近までが活動場所である。当地区は幹線道路から海岸線へ延びる道路が狭い場所や、海岸と道路の間が険しい崖となっている場所が多い。また、同地区には諸外国から海防のため築いた砲台である国指定史跡の丸岡藩砲台跡や火山活動で形成され、隆起と海食で現れた国指定名勝天然記念物の越前松島海岸のある場所に位置する。

#### 2. 漁業の概要

梶生態系保全活動グループの主な構成員は、雄島漁業協同組合に所属している梶支所の組合員を中心に梶区住民全員である。組合員の主要な漁業は魚の一本釣りで、主な漁獲対象魚類はタイ・ハマチ・アジ・ヒラメ等である。海女は素潜りで主な漁獲対象物は、ワカメ・ウニ・サザエ・アワビ・岩ノリ等がある。

組合員は40歳代の海女から80歳代の漁師がいるが、組合員の7割近くは70歳を超えており、高齢化による組合員の減少も著しい。現構成員で藻場の保全活動を継続しながら、当地区から新規就業者や若手組合員を育成する体制づくりを求めている。

#### 3. 活動組織の運営

##### (1) 活動組織の発足年月日

平成22年2月27日 活動15年目

##### (2) 構成員の数と形態

構成員146名（内訳：漁業者11名、漁業者以外135名）

##### (3) 活動延べ人数

平成23年度	623人	平成24年度	489人	平成25年度	422人
平成26年度	494人	平成27年度	607人	平成28年度	611人
平成29年度	466人	平成30年度	422人	平成31年度	502人
令和2年度	420人	令和3年度	393人	令和4年度	398人
令和5年度	283人	令和6年度	288人	令和7年度	278人

##### (4) 対象地域での活動歴

梶地区では、平成22年度から区民総出の漂着ゴミの回収を中心とした海岸清掃・流域海岸の下草刈り、漁業組合員主体の特認作業の岩起こしや有害生物の除去などの海中清掃、海苔畑の岩盤清掃を実施している。

海を知らない地元子供に対し海と漁村への親近感を感じてもらうため、毎年行う釣り体験や魚料理体験を今回は子供の参加数減少により実施せず、今後の啓蒙活動を継続的に行うことが危惧される。

#### 4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

##### (1) 活動場所



⑦海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、  
堆積物処理 2.2ha

①藻場の保全 4.2ha

##### (2) 対象資源の現状

当地区海岸は大規模な磯焼けなどは発生しておらず、海女による素潜りでの漁獲量は横ばいか微増で、活動を通じ現状の藻場を維持していることは認識できるが、「岩起こし」活動が困難な区域は漂砂を起こしている海岸も少なくない。詳しい漁獲量を確認できないが一人当たりの漁獲量は微増で組合員減少による総漁獲量は長期的観測では減少しているのは確かである、また、地元のウニ、ワカメ小売店でも予約販売量を仕入れるのが精一杯とのことである。

##### (3) 課題

漁業協同組合員の高齢化に伴う会員の減少は漁業壊滅につながる恐れがあり、次世代の若者は漁業への魅力が少なく関心が薄いのも事実である。当活動による良漁場の回復で水産資源の確保と、啓蒙活動や体験教室など次世代の担い手の育成を行うことが必須である。

令和7年度会員数

年齢別組合員	30代	40代	50代	60代	70代	80代
海女	0人	1人	0人	2人	2人	0人
漁師	0人	0人	0人	0人	4人	2人

現在、海女5名、漁師6名の会員がおり、重労働である海女活動や漁師活動において高齢を理由に組合を脱退する者や、持病により軽作業は行いが今まで通りの漁業を行う事のできない会員などもある。伝馬船を所有している者に組合員加入の勧誘を行うが、漁業事態が趣味の範囲程度であり組合員加入を拒否しているなど、魅力ある組合作りが必要である。

#### 5. 活動の実施状況及び効果

##### (1) 本年度の活動実施状況

今年度は下草刈・海岸清掃・海中清掃などの活動を行った。海洋汚染等の原因となる漂流・漂着物・堆積物の処理活動では、活動地域が落石・倒木等で危険な状態であること、漂流・漂着物の搬送する道路（遊歩道）もかなり危険な状況となっていることから事故には十分注意を

払いながら活動を行った。

実施日	活動区分	活動内容	参加者
R7. 4. 23, 25, 27	藻場の保全	海岸清掃	19名
R7. 4. 27	漂流・漂着・堆積物の処理	浮遊物・堆積物の処理	49名
R7. 5. 27, R7. 6. 7	藻場の保全	海岸の下草刈り	9名
R7. 7. 6	藻場の保全	海岸の下草刈り	70名
R7. 7. 10	藻場の保全	モニタリング	2名
R7. 7. 29	藻場の保全	岩起こし（特認作業）	8名
R7. 8. 4	藻場の保全	岩起こし（特認作業）	8名
R7. 9. 3	藻場の保全	海岸の下草刈り	38名
R7. 9. 28	漂流・漂着・堆積物の処理	海岸清掃	46名
R7. 10. 19	藻場の保全	海岸の下草刈り	37名
R7. 10. 25, 26	藻場の保全	海苔畑清掃	6名
R7. 11. 9	漂流・漂着・堆積物の処理	海岸清掃	5名

## (2) 活動の内容、効果等

海岸清掃・岩盤清掃・海中清掃により、良好な漁場を確保し、ウニ・海苔・わかめ・さざえ・あわび等の成育を良好にする。



水域の保全(海岸清掃)



海苔畑の清掃(岩盤清掃)



藻場の保全(岩起こし)



漂着物の回収を中心とした海岸清掃



流域における植林及び下草刈



堆積物除去(海中清掃活動)



岩盤清掃(海苔畑清掃)

### (3) モニタリングの様子



モニタリング

前回実施場所でホンダワラ刈を行った海岸3ヶ所、行っていない海岸3ヶ所を対象に水深約1m~2mに同じ面積中に海産物等の生息状況や海藻の生息状況のモニタリングを行った。

前回同様、ホンダワラが大量発生しなかったことと積極的に間引きをしたことで生育状況は前回より良かった。ホンダワラの間引きの効果は生育状況を左右することが確認している。

#### (4) 効果について（海女さんへの聞き取り）

##### ○わかめの漁獲に対する活動の効果について

漁獲量は前回と微増であり活動効果は専門家の判断でも多少影響があると判断されており、今後も活動を続けて効果を見てはどうか。

##### ○ウニの漁獲に対する活動の効果について

漁獲量は前回と同じくらいであるが、長期的観測では減少傾向で活動効果の影響は分からないが、多少はあるだろう。

##### ○岩海苔の漁獲に対する活動の効果について

需要も少なく積極的な漁獲に取り組む海女は少ないが、贈り物や昔からの海の味として好む人も少なくない、漁獲量は少ないが継続的に保全活動を行う。

## 6. 今後の課題と計画

当グループは県の水産多目的機能発揮対策事業の一環として、役員で活動計画を立案し地域住民の理解を増進し課題点を明確にして活動を行ってきた。

活動における区民の認知度は高く積極的参加は確実にあるが、区民の高齢化および組合員減少で活動参加人員は確実に減少しており、長時間活動でカバーするも熱中症などの事故の懸念もあり現行以上の活動は慎重になる。

長期的観測で海産物の減少は明確であり、当グループの漁場育成の抜本的な改善は限界を感じているが、現活動は藻場の保全に対し多少貢献できていることは専門家とのヒアリングで確認できている。

今後も継続的な活動を行っていききたいが下記の様々な課題がある。

- (1) 区民の高齢化および組合員減少で活動参加人員の減少。
- (2) 気候変動（温暖化など）による長時間活動の制限。
- (3) 子供の減少による啓蒙活動（体験学習など）の地区単位の活動。

しかし、現状行っている海岸清掃・沿岸清掃・海中清掃等は漁場育成に多少影響しており、活動は積極的に行っていききたい。また、専門家とのヒアリングを代表者、事務局だけでなく組合員全員と行えば今後の効果が出てくると思われる。

#### ④ 浜地里海を育てる会（坂井市）

##### 1. 地域の概要

浜地里海を育てる会の漁業者は雄島漁業協同組合に所属している。当地区の漁場は海岸線が砂浜のため、漁獲法は地曳網や刺し網である。水揚げされる魚の種類は、コウナゴやフグ・鯛・イナダ・イカなどだが、地曳網については近年、観光用がほとんどで漁獲本来の操業は行われていない。刺し網については一定の操業が行われている。また春のシーズンには離岸堤に繁茂するワカメ漁が盛んに行われ、地区内のいたるところでワカメの天日干しの光景が見られる。

##### 2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 29 日

(2) 構成員の数と形態

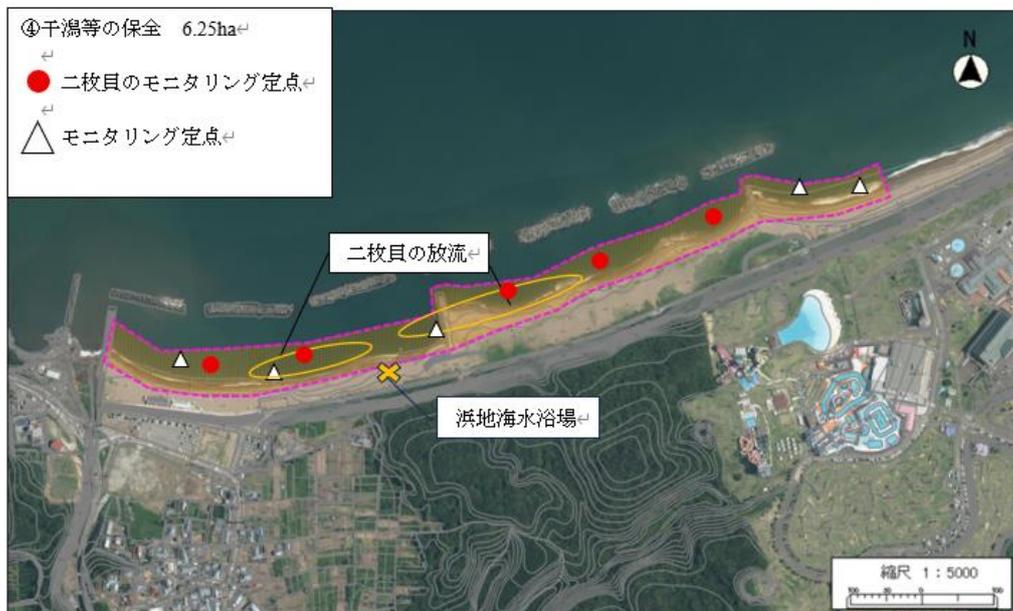
構成員 145 名（内訳：漁業者 11 名、漁業者以外 134 名）

(3) 活動延べ人数

54 名

##### 3. 活動の対象範囲と対象資源の現状

(1) 活動場所



(2) 対象資源の現状

砂浜海岸につき、地曳網、刺し網漁中心で、ホウボウ、鯛、キス、カレイ類、サザエ、赤バイ貝などが漁獲される。この他には離岸堤付近において毎年春にはワカメの収穫が行われている。

#### 4. 活動の実施状況

海洋汚染等の原因となる漂流、漂着物、堆積物処理海岸の清掃活動と二枚貝の放流活動を実施。区民及びボランティア、外部団体が行う清掃活動も増えてきており、水産多面事業として始まった海岸清掃活動が、区等が行う清掃活動の方にもうまく移行してきている。

##### (1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R7.7.9	干潟等の保全	浮遊・堆積物の除去 (海岸・渚帯の清掃)	6名	
R7.9.27	干潟等の保全	浮遊・堆積物の除去 (海岸・渚帯の清掃)	15名	
R7.10.18	干潟等の保全	浮遊・堆積物の除去 (海岸・渚帯の清掃)	15名	
R7.11.29	干潟等の保全	浮遊・堆積物の除去 (海岸・渚帯の清掃)	15名	
R7.12.11	干潟等の保全	機能強化のための生物 移植(二枚貝放流)	3名	

##### (2) 活動内容写真



清掃作業、回収物



海岸清掃活動



海岸清掃作業



海岸清掃作業



二枚貝(ハマグリ)の放流



二枚貝(ハマグリ)の放流



海岸清掃作業



清掃作業、回収物

## 5. これまでの振り返り

これまで浜地里海を育てる会では、水産多面事業の一環として海岸清掃や二枚貝(ハマグリ)放流を継続的に実施し、地域の海岸環境の保全と資源回復に努めてきた。これらの活動は、漁業者のみならず地域住民の環境意識向上にも寄与し、海岸の美化や生態系保全への取り組みとして大きな役割を果たしてきた。

しかし近年、浜地区民をはじめ、企業団体、地域ボランティアなど多様な主体が自主的に清掃活動へ参加する機会が増えている。これにより、かつては水産多面事業に大きく依存していた海岸清掃作業が、徐々に地域主導の活動へと移行しつつある。こうした変化は、地域全体で里海を守る意識が広まったことによるものだと考えられる。

## ⑤ 三国沖の海を見守る会（坂井市）

### 1. 地域の概要

三国沖の海を見守る会の主な構成員は、三国港漁業協同組合に所属している。三国港漁業協同組合の主要な漁業は一本釣りである。春はメバルやアマダイ、夏はアジやヒラマサ、秋はカワハギ、冬はフクラギやタラなどが獲れる。

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

平成 31 年 1 月 31 日

#### (2) 構成員の数と形態

構成員 21 人(内訳：漁業者 20 人、漁業者以外 1 人)

### 3. 活動内容

通常の漁と併せて、不審船や海洋異変の有無を確認するとともに、海洋環境情報（水温）を収集した。また、確認記録が記載された日報の取りまとめを行う。

### 4. 活動実績（令和 7 年 12 月末まで）

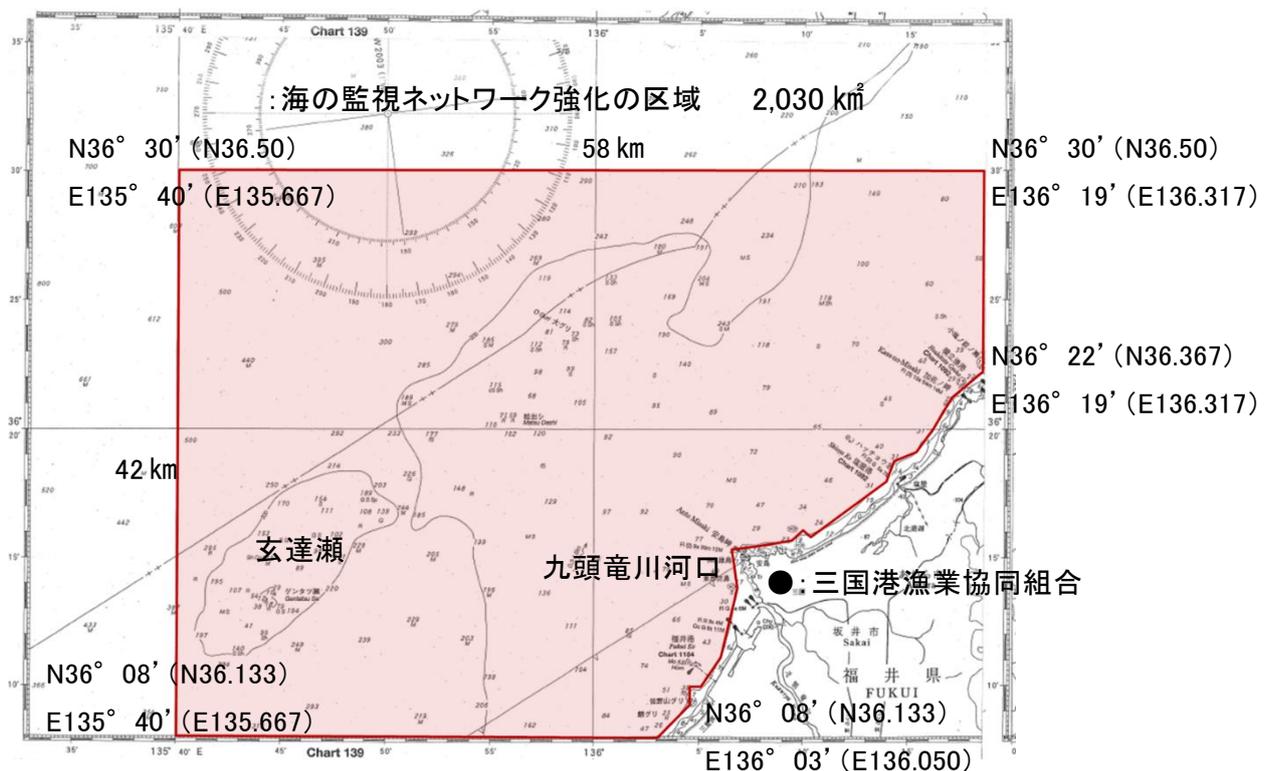
第 1 四半期：監視隻数延べ 59 隻、日報の取りまとめ作業 9 日

第 2 四半期：監視隻数延べ 108 隻、日報の取りまとめ作業 26 日

第 3 四半期：監視隻数延べ 71 隻、日報のとりまとめ作業 10 日

合計：監視隻数延べ 238 隻、日報の取りまとめ作業 45 日

### 5. 活動場所



## ⑦ 勝山九頭竜川環境ネットワーク（勝山市）

### 1. 組織の概要

勝山九頭竜川環境ネットワークは、九頭竜川の地域資源の維持・回復を図るため、環境保全、水性生物の保護・増殖等を目的とし、勝山市漁業協同組合を中心に地域のふるさとづくり、まちづくり協議会、勝山青年会議所等の団体を構成員として発足した。

#### (1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 15 日

#### (2) 構成員の数と形態（令和 7 年 8 月 6 日現在）

構成員 100 名（内訳：漁協組合員 95 名、漁協以外は団体代表者 5 名）

#### 《構成団体》

勝山市漁業協同組合、勝山青年会議所、荒土町地区かつやまっ子応援ネットワーク、荒土小学校、昭和町子ども育成会、サクラマスレストレーション

### 2. 活動の実施状況

九頭竜川流域の河原清掃、草刈り等の保全活動や啓蒙活動として子供たちを対象に川をきれいにすることや、生息する水生生物の保護の大切さを教えるための講座を実施した。

#### (1) 本年度の実施状況

活動日	活動区分	活動内容	人数（人）	備考
5月18日	保全活動	河川敷清掃	57	清掃区域は、漁協管轄区域の勝山南大橋、勝山橋、恐竜橋、発坂事務所前、小舟渡橋の5か所周辺における粗大ゴミ、不燃ゴミの回収
7月27日	保全活動	河川敷清掃	51	
9月7日	保全活動	河川敷清掃	48	
6月4日	保全活動	河川敷草刈	16	草刈り場所は、主に漁協管轄の九頭竜川、滝波川沿い堤防及び河川敷の道、駐車場を対象に実施
6月5日	保全活動	河川敷草刈	15	
6月6日	保全活動	河川敷草刈	15	
6月7日	保全活動	河川敷草刈	16	
6月8日	保全活動	河川敷草刈	6	
6月9日	保全活動	河川敷草刈	1	
7月25日	保全活動	河川敷草刈	11	
7月28日	保全活動	河川敷草刈	9	
10月20日	保全活動	河川敷草刈	8	
5月14日	啓蒙活動	鮎の放流体験（放流前に鮎の話）	11	
5月19日	啓蒙活動	鮎の放流体験（放流前に鮎の話）	5	場所は、組合事務所前の九頭竜川浅瀬 参加者：鹿谷保育園 27 名
5月23日	啓蒙活動	鮎の放流体験（放流前に鮎の話）	11	場所は、勝山橋上流の九頭竜川浅瀬 参加者：南こども園 9 名、ケイターこども園 38 名、成器南幼稚園 6 名、
7月27日	啓蒙活動	鮎の摺み取		場所は、昭和町 1 丁目ふれあい会館

6月11日 ～12	モニタリ ング	り体験 鮎料理教室  鮎の調査釣 り	3	参加者 昭和町1丁目子供育成会 33名 簡易プールを設置、鮎を放流し、鮎掴み とり、及びアユの串のさし方、化粧塩 の付け方の料理教室 漁協組合員が漁場、鮎の成長度、釣果 を調査
--------------	------------	--------------------------------	---	---

(2) 活動内容写真



河原の清掃



草刈り



あゆ放流体験



アユつかみ取り体験



アユの料理教室

### 3. 活動の状況と今後の課題

環境保全としての河原の清掃や草刈り作業は、計画のとおり実施出来たが、いずれの作業も年々参加者が減少している。現状は、構成員の脱会や少子高齢化問題で解決できない課題に到来しており、抜本的に事業の見直しの検討が必要とされる。

幼い子ども達へのあゆの放流体験の試みは、子ども自身が、あゆに触れ、急流に動じないあゆの泳ぎに感嘆し、関心を抱く状況が如実に窺える。きれいな川、生息する生き物の大切さを教えるための啓蒙活動は当然に継続すべき課題である。

## ⑦ 日野川環境整備協議会（越前市）

### 1. 地域の概要

日野川は一級河川九頭竜川の支流で、流路延長は71.5kmの県管理河川である。福井市、鯖江市、越前市、南越前町を流れ、日野川漁業協同組合の漁場となっている。主要な魚種はアユ、ヤマメ、イワナ等であるが、中でもアユが最も重要な魚種となっており、漁協はアユ中間育成施設を設置し、放流用アユ稚魚の生産・放流を行っている。漁協では、年間を通して遊漁証を販売して釣り人を受け入れるとともに、環境の整備を進めている。



事業名	水産多面的機能発揮対策事業 日野川環境整備協議会
日付	令和7年6月8日（日）
活動区分	河川整備
場所	越前市～南越前町
活動項目	草刈り、ゴミ拾い等
備考	

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

平成25年7月26日（活動12年目）

#### (2) 構成員の数と形態

構成員361名（内訳：漁業者119名、漁業者以外242名）

#### (3) 活動延べ人数

平成25年度 209人

平成26年度 594人

平成27年度 667人

平成28年度 456人

平成29年度 445人

平成 30 年度	436 人
令和元年度	498 人
令和 2 年度	393 人
令和 3 年度	342 人
令和 4 年度	274 人
令和 5 年度	241 人
令和 6 年度	318 人
令和 7 年度	433 人

#### (4) 対象地域での活動歴

日野川環境整備協議会では、今年も引き続き環境保全に大きな影響を及ぼす内水面の生態系の維持・保全・改善（草刈りや清掃活動）の活動を実施してきた。

### 3. 保全活動の対象範囲

#### (1) 活動場所



### 4. 活動の実施状況及び効果

日野川環境整備協議会は、設立から 12 年目となる令和 7 年度においても、地域住民と協働し、草刈りや河川清掃等の環境整備活動を継続的に実施した。活動区域では、雑木や雑草が繁茂していたが、定期的な整備作業により有害植物の河川内への侵入を防止し、良好な河川環境の維持を図ることができた。

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数 (人)	備考
R7.4.11	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	9	協定流域
R7.4.25	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	4	協定流域
R7.5.16	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	7	協定流域
R7.5.23	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	5	協定流域
R7.5.24	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	8	協定流域
R7.5.25	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	9	協定流域
R7.6.4	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	9	協定流域
R7.6.7	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	6	協定流域
R7.6.8	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	87	協定流域
R7.6.10	モニタリング	生態系の調査	15	松ヶ鼻頭首工
R7.6.26	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R7.6.30	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	11	協定流域
R7.7.4	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	10	協定流域
R7.7.11	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	10	協定流域
R7.7.12	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	8	協定流域
R7.7.13	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	68	協定流域
R7.7.27	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	2	協定流域
R7.8.5	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	13	協定流域
R7.8.6	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	13	協定流域
R7.8.16	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	59	協定流域
R7.8.29	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	3	協定流域
R7.8.31	環境整備活動	草刈り、ゴミ拾い	63	協定流域
R7.9.5	モニタリング	生態系の調査	11	協定流域

(2) 活動内容写真



R7.4.11 河川清掃活動



R7.4.25 河川清掃活動



R7.5.16 河川清掃活動

R7.5.23 河川清掃活動



R7.6.4 河川清掃活動



R7.6.10 モニタリング



R7.7.4 河川清掃活動



R7.7.13 河川清掃活動



R7.7.13 河川清掃活動

R7.5.24 河川清掃活動



R7.6.7 河川清掃活動



R7.6.26 河川清掃活動



R7.7.11 河川清掃活動



R7.7.27 河川清掃活動



R7.7.27 河川清掃活動

R7.5.25 河川清掃活動



R7.6.8 河川清掃活動



R7.6.30 河川清掃活動



R7.7.12 河川清掃活動



R7.8.5 河川清掃活動



R7.8.5 河川清掃活動

R7.8.6 河川清掃活動



R7.8.16 河川清掃活動



R7.8.29 河川清掃活動



R7.8.31 河川清掃活動



R7.9.5 モニタリング



## 5. 活動の成果と今後の課題

令和7年度は、例年より多くの構成員が参加し、負担を分散しながら短時間で作業を完了できる体制を整えることができた。予算確保により地域住民や関係者の参加も広がり、効率的かつ計画的に河川環境の整備を進め、日野川の良好な漁場環境の維持に貢献した。

今後は、ホームページやSNS等で活動を広く周知し、参加者の年齢構成や負担の偏りに対応するため作業体制の工夫を継続することで、環境整備活動の持続性と効率性を高め、利用者にとって安全で利用しやすい河川環境の維持につなげていく。

## ⑧ 河野川清流保存会（南越前町）

### 1. 組織の概要

河野川清流保存会は、令和4年8月に発生した豪雨災害により被災した南越前町赤萩地先を流れる河野川において、河川清掃活動等を実施することで同河川の環境保全や水産資源の維持・回復を図ることを目的として、河野川漁業協同組合を中心に赤萩区や、その他趣旨に賛同する者を構成員として、に発足した。

(1) 活動組織の発足年月日

令和6年2月22日

(2) 構成員の数と形態

構成員 80名（内訳：漁業者 35名、漁業者以外 45名）

構成員 河野川漁業協同組合、赤萩区他

### 2. 活動の実施状況

令和7年度は、河川の環境保全に努めるとともに、水産資源の維持、回復を目的として、河野川の清掃活動を実施し、モニタリングによる現状把握を行った。また、地元小学校の生徒を対象としたアユ、ヤマメの稚魚放流体験教室を実施し、川に生息する水生生物や、川をきれいにすることの大切さを学習してもらった。

(1) 本年度の実施状況

活動日	活動区分	活動内容	人数 (人)	備考
8月9日	保全活動	河川清掃	17	赤萩集落下流魚道付近の雑木処理、清掃 河川敷き内流木処理
10月26日	保全活動	河川清掃	14	
5月28日	啓蒙活動	教育学習 (放流体験)	65	赤萩集落内 (河野小 46名、建設業会他 12名、漁協 7名)
6月22日	モニタリ ング	調査捕獲	3	桜橋から河野川河口までの区間 (5箇所)
10月11日		調査捕獲	4	桜橋から河野川河口までの区間 (5箇所)

(2) 活動内容写真



8月9日 河川清掃状況



10月26日 河川清掃状況(河川内流木処理)



5月28日 教育学習



6月22日 モニタリング



10月11日 モニタリング

### 3. 活動の状況と今後の課題

今年度の活動については、計画通り実施することができた。教育学習においては、小学校の児童に河川環境保全の必要性と、水生生物のやくわりや親しみを伝えることができた。

令和4年8月の豪雨災害から3年を経過したが、河川が増水すると上流域からの土砂の流入が今なお続き、河野川の地域資源にかかる環境保全、水性生物の保護・増殖等に甚大な影響を及ぼしている。

この現状を鑑み、会として、できることをできる範囲で、前向きな気持ちを持って取組んでいくことを共通認識とし、更なる組織の拡大を目指していきたい。

## ⑨ 敦賀河川を守る会（敦賀市）

### 1. 組織の概要

敦賀河川を守る会の主な構成員は、敦賀河川漁業協同組合に所属している。敦賀河川漁業協同組合の主な漁獲対象魚種はアユとヤマメ等の溪流魚で、笙の川・黒河川・木の芽川の3河川に年間500人前後の遊漁者が県内外から釣りに来る。組合は、令和7年度はアユを900kg、ヤマメ90kgを放流するとともに、産卵場の保護・造成に努め、天然資源の増加に向けた活動を行っている。

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

平成25年7月31日 活動12年目

#### (2) 構成員の数と形態

構成員20名（内訳：漁業者13名、漁業者以外7名）



#### (3) 活動延べ人数

277人（令和7年度）

#### (4) 対象地域での活動歴

敦賀河川漁業協同組合では、河川清掃を以前から継続して実施するとともに魚類資源の増殖活動を行ってきた。

### 3. 保全活動の対象範囲

#### (1) 活動場所



- 河川清掃箇所 (5 か所・計 8ha)
- 出前教室 (中郷小学校)
- 放流体験 (笹の川・中郷小学校)
- 川床掘り起し (笹の川)

### 4. 活動の実施状況及び効果

河川を利用する人が減少したために、河川敷の草木が増殖し、ごみの不法投棄も増加してきたので、組合では定期的に清掃活動を実施してきた。

しかし、河川利用者が増加しない限り、河川環境の悪化が継続することが懸念される。

そのため『水産多面的機能発揮対策事業』により①河川清掃、②小学生の放流体験、③小学校出前教室、④川床掘り起しと産卵場整備を実施することで、河川環境整備、小学生への教育と啓発を図ることとした。

#### (1) 本年度の活動実施状況

本年度は、①河川清掃活動とモニタリング（清掃後の状況・水生生物）、②小学生の放流体験、③小学校出前教室、④川床掘り起しと産卵場整備を実施した。

#### (2) 河川清掃活動とモニタリング

令和 7 年 4 月 30 日に衣掛橋上流地区 (0.7ha)、5 月 14 日に奥野橋地区 (0.1ha)、5 月 18 日に鳩原地区 (3.0ha)、5 月 28 日に愛発公民館前地区 (3.2ha)、5 月 29 日に衣掛橋下流地区 (1.0ha) の草刈りと清掃活動を実施した。

また、草刈りを実施した 5 か所について、6 月から 11 月にかけて毎月 1 回のモニタリング調査を実施した。

活動日	活動区分	活動の内容	参加人数	備考
R7. 4. 11	年間活動計画	計画・打ち合わせ	10 人	
R7. 4. 30	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	9 人	衣掛橋上流
R7. 5. 8	教育・学習	放流体験	85 人	事務所前・中郷小
R7. 5. 14	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	8 人	奥野橋-
R7. 5. 18	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	10 人	鳩原
R7. 5. 28	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	8 人	愛発公民館前
R7. 5. 29	河川清掃	草刈り・ごみ清掃	10 人	衣掛橋下流
R7. 6. 9	生物モニタリング	水生生物調査	5 人	5 か所
R7. 6. 26	第 1 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3 人	清掃した 5 か所
R7. 7. 24	第 2 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3 人	清掃した 5 か所
R7. 8. 26	第 3 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3 人	清掃した 5 か所
R7. 9. 24	第 4 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3 人	清掃した 5 か所
R7. 10. 2	教育・学習	出前教室	75 人	中郷小学校
R7. 10. 4	産卵場整備	川床掘り起しと整地	8 人	笙の川
R7. 10. 24	第 5 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3 人	清掃した 5 か所
R7. 11. 5	生物モニタリング	水生生物調査	5 人	5 か所
R7. 11. 25	第 6 回モニタリング	ゴミ・草等の確認	3 人	清掃した 5 か所
R7. 12. 15	川床掘り起し	生息環境改良	6 人	道口事務所前
R7. 12. 16	川床掘り起し	生息環境改良	6 人	衣掛～JR 鉄橋
R7. 12. 17	川床掘り起し	生息環境改良	6 人	JR 鉄橋～堂橋
R7. 12. 18	川床掘り起し	生息環境改良	6 人	堂橋～堂新橋
参加人数合計 275名				

### 河川敷清掃活動



活動前の集合写真



活動日時等の記録



草刈り活動前の状況



草刈りと清掃活動状況



草刈りと清掃活動状況



収集したゴミ

モニタリング活動(日常モニタリング・清掃後の変化・6月から11月まで月一回)



集合写真



活動日時等の記録



清掃1か月後



清掃4か月後

## モニタリング活動(定期モニタリング・水生物調査・年二回)

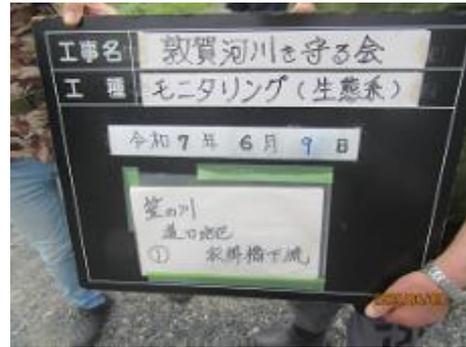
令和7年6月9日と11月5日に、草刈り・清掃活動を行った5地区で、水生生物の採集調査を実施した。

調査には、口径25cm×25cm目合い0.5mmのサーバーネットを用い、1地区で2か所の採集を行い、採集物は50%アルコールで保存した後に拡大鏡下で分類・計数した。

各地点共に、カゲロウ類の幼虫やトビケラ類の幼虫が確認でき、きれいな水質であることが示された。



調査前の集合写真



活動日時等の記録



採集状況



採集状況

### (3) 放流体験と学校出前教室

令和7年5月8日に中郷小学校2年生による放流体験を、10月2日に同小学校で出前教室を開催し、鮎の生態などの説明、鮎釣りの方法、クイズなどを行い、福井の川で見られる魚の図鑑などを配布した。



稚鮎の放流(マスコミ取材もありました)



鮎の生態などを熱心に聞いている



鮎釣り竿を持ってみる(長〜い!)

#### (4) 川床の掘り起し(耕耘)

令和7年10月4日に産卵場の整地作業を実施した。

木の芽川と笹の川の合流点から三島橋までの産卵場で重機による掘り起こしを実施するとともに、手掘りによる掘り起こしも実施した。

#### 産卵場での河床耕耘



集合写真



整備前の状況



重機による河床掘り起こし(耕耘)

## 川床掘り起し

令和7年12月15日～18日の計4日間、川床の掘り起しを計2,000mの区間で実施し、魚類の生息に適した浮石状態の川床への改良を実施した。

今年も大雨で大量の土砂が流入しており、掘り起こしの効果は大きかったと考える。



オペレーターとの打合せ後



集合写真と活動日時等の記録



川床の掘り起し作業

## 5. 今後の課題と計画

川床が浮石状態の良好な環境だったものが、近年では砂の堆積により石が埋没してしまい、川床が固くなるとともに水生昆虫の生息にも支障をきたし餌環境が悪くなっている。

重機による河川改良は作業しても一年で元に戻ってしまうため抜本的解決策の研究が必要である。

魚の遡上を助けるために設置された魚道も老朽化や魚道の入り口に砂が堆積したりして遡上

が困難な魚道が多くなっており、改善が必要であるが、管理者との協議が順調に進まないことが多く、予算の問題も加わって解決に至らないものが大部分である。

また、本年も天然遡上するアユが例年より多く、稚鮎の放流量を前年より少なくしたが、高温と水量不足もあり、成長が極めて悪かった。

出前教室については、他の学校からも要望があるので追加する必要もあるが、学校数が増加すると日程調整が困難となる事が課題である。

生態系の維持・保全に向けて、河川環境の改善や魚道の改良が必要であり管理者との継続的な協議が必要である。

## ⑩ 敦賀湾磯焼け防止会（敦賀市）

### 1. 地域の概要

敦賀市は、福井県の中央部に位置し、人口約6万2千人の市である。当グループの活動場所はリアス海岸が敦賀湾を囲む西浦地区と東浦地区である。敦賀湾は日本海の荒波の影響を受けにくい養殖漁業に適した海域や、湾口から波が押し寄せる岩礁が点在する海域など、季節や天気によって、また場所によってさまざまな表情を見せる魅力ある海である。湾奥部には日本三大松原である名勝地「気比の松原」が位置している。

### 2. 漁業の概要

敦賀湾磯焼け防止会の主な構成員は、敦賀市漁業協同組合に所属している組合員であり、湾内では定置網漁や養殖漁業、ナマコ桁網漁、タコつぼおよびかご漁、一本釣り漁、素潜り漁、磯見漁、刺網漁が行われ、湾外では延縄漁、刺網漁、タコつぼ漁、一本釣り漁を行っており、主にサワラ類、アジ類が多く漁獲されている。中でも延縄漁で漁獲される甘鯛は「若狭ぐじ」としてブランド化されている。養殖漁業では、昭和50年代からマダイ、トラフグ養殖が行われており、「敦賀真鯛」「敦賀ふぐ」としてブランド化されている。

### 3. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

令和4年12月1日（活動3年目）

#### (2) 構成員の数と形態

構成員216名（内訳：漁業者209名、漁業者以外7名）

#### (3) 活動延べ人数

153人（令和7年度）

食害生物の除去及びモニタリング、海藻の種苗仮置、教育活動を行い、それぞれ139人、2人、2人が参加した。海藻の種苗設置については2月～3月に10人が参加して実施予定である。

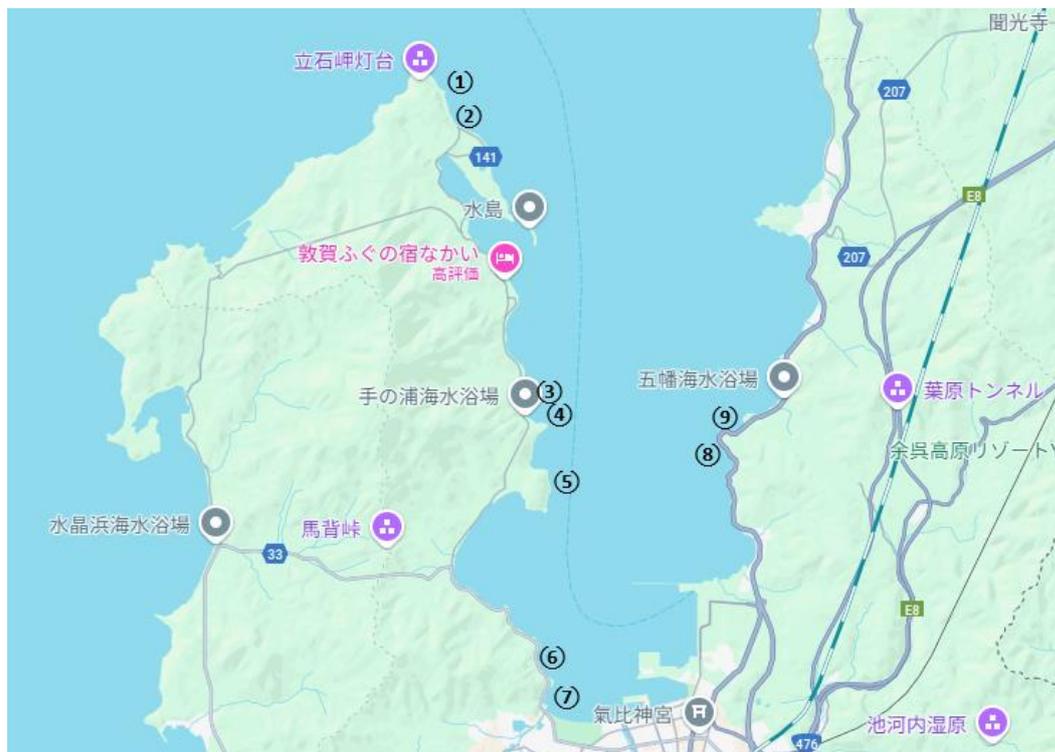
#### (4) 対象地域での活動歴

以前から個人で素潜り漁をする際に、食害生物であるムラサキウニの駆除を行っていたが、普段は自分の地先しか潜らない敦賀の漁師が協力し合って海藻を増やそうと、令和4年に当会を結成し、令和5年から活動を行った。

敦賀市漁業協同組合が藻場造成に効果のあるカキ殻を詰めた魚礁を設置したり、国交省や民間の業者が主体となって、海藻に必要な栄養素が含まれたプレートをそれぞれが設置するなどの藻場再生の取り組みが敦賀湾で行われているが、それでも磯焼けはまだまだ改善していないという背景があった。

#### 4. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

##### (1) 活動場所



食害生物の除去①～⑨ 計9箇所 海藻の種苗投入②、③、⑤、⑥、⑧、⑨ 計6箇所  
モニタリング ①～⑨ 計9箇所

##### (2) 対象資源の現状・課題

敦賀湾沿岸の中でも環境は地区によって異なっているが、今回設定した地区では磯焼けが起こっていた。磯焼けが直接の原因かどうか分からないが、敦賀湾では痩せたアワビやアワビの死骸が見つかったり、シタダミが居なくなった他、モズクの減少等が確認されている。

海中を潜ると岩に海藻が生えず剥き出しになり、そこに大量のムラサキウニが付いている様子が見られる箇所があり、このような箇所を拡大させてはならないと感じる。

敦賀湾の中でも、磯焼けが起きていたがムラサキウニの採取と養殖用ワカメを繁殖目的で育てるなどの活動を以前から行っていた地区の漁師は磯焼けが改善してきたと言っている。敦賀湾全体で改善されるような活動が必要である。

水産試験場に敦賀湾の磯焼けについて問い合わせをしたところ、磯焼けの調査を行ったことはあるが、その原因まではわからず、様々な要因が重なっているのではないかと回答を貰った。水産試験場でも原因がわからないのであれば、考えうる原因を自分達で解決していく他ないが、地球温暖化や海工事の影響であればどうすることもできず、海藻を食べるムラサキウニが磯焼けを加速させる原因の一つと考え、その駆除を継続し、海藻の種苗投入等を行って試行錯誤するしかない。

## 5. 保全活動の実施状況及び効果

### (1) 活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者	備考
R7. 8. 18	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	5名	漁業者、組合職員
R7. 8. 18	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	5名	漁業者、組合職員
R7. 8. 22	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	8名	漁業者、組合職員、 県職員
R7. 8. 22	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	8名	漁業者、組合職員、 県職員
R7. 8. 25	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	8名	漁業者、組合職員
R7. 8. 25	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	8名	漁業者、組合職員
R7. 8. 26	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	8名	漁業者、組合職員、 市職員
R7. 9. 1	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	6名	漁業者、組合職員、 市職員
R7. 9. 2	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	5名	漁業者、組合職員
R7. 9. 2	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	5名	漁業者、組合職員
R7. 9. 8	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	6名	漁業者、組合職員
R7. 9. 8	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	6名	漁業者、組合職員
R7. 9. 10	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	6名	漁業者、組合職員
R7. 9. 10	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	6名	漁業者、組合職員
R7. 9. 11	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	6名	漁業者、組合職員
R7. 9. 12	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	6名	漁業者、組合職員
R7. 9. 17	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類) モニタリング	11名	漁業者、組合職員
R7. 10. 2	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	8名	漁業者、組合職員
R7. 10. 3	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	8名	組合職員
R7. 10. 8	藻場の保全	食害生物の除去 (ウニ類)	10名	漁業者、組合職員
R7. 12. 4	藻場の保全	海藻の種苗仮置	2名	組合職員
R8. 1. 28	藻場の保全	教育活動	2名	漁業者、組合職員
R8. 2~3月 (予定)	藻場の保全	海藻の種苗投入	10名	漁業者、組合職員

### (2) 活動の内容と効果

8月から食害生物の除去、ムラサキウニの駆除を行った。8月18日から10月8日に渡り延20日間、37.25時間、ムラサキウニの駆除活動を行った。ムラサキウニの生息数は多く、一人当たり1時間で100匹以上駆除してもまだまだ生息しているようだった。また、ガンガ

でも多く、岩肌をよく見ると小さな子供のガンガゼが多数付着していた。

モニタリングを駆除活動と同じ時にすることで冬に行うよりも画像の解像度が良く、安全性も高まった。

12月に海藻の種苗を入れた魚かごを養殖筏に吊るし仮置きを行った。今後の成長に期待する。

翌年1月に敦賀西小学校の5年生を対象に教育活動を行い、海の環境への理解と関心を持ってもらうことができた。

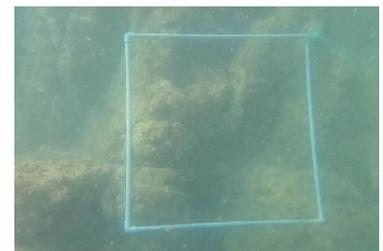
### (3) 活動内容写真



食害生物の除去



食害生物の除去



モニタリング



海藻の種苗設置



教育活動

## 6. 活動の課題

敦賀市の漁業者は先に述べた通り様々な漁業種で生計を立てているが、季節や漁期によって漁業種を変える人が多い。その中でも、地区によって漁期は異なるが、多数が夏季に素潜り漁や磯見漁を行う人が主となってこの活動を行っている。その活動の中でも、負担が重いのが食害生物の除去である。素潜りには慣れているが、漁獲することではなく、ハンマーなどを海中で振り続け、堅いウニの殻を割る作業は体力的に負担が掛かる。午前2時から定置網漁を操業し、7時過ぎに水揚げを終えて9時からウニの駆除をする人も居て、若くもない活動者たちが疲労困憊の様子で居るのを見ていると、あと何年この活動をできるのだろうかと感じる。

松原地区の岩をよく見ると小さな子供のガンガゼがびっしりと付いている様子を見て昔は居なかったガンガゼの繁殖能力の強さを感じた。遊泳するような場所ではないが、岩に素手を付ければ細かな針が多数刺さるので、そういった危険性も感じられた。

海藻の種苗投入について、種苗はサカイオーベックスから購入しており、その担当者によると、12月に種苗を海中に設置し、その翌年の冬から繁殖が始まるということなので、効果を高めるために、静穏な漁港内に約1年間仮置きし、翌年度の種を出す11月ころに設置区域に移設させる活動が考えられるが、現在のところ2月～3月に該当する地区に移設する予定である。

## ⑪ 魚達の住みよい川・湖づくりの会（若狭町）

### 1. 組織の概要

本会の主な構成員には、鳥浜漁業協同組合をはじめ、地元の鳥浜区の団体などが所属している。同漁業協同組合では、三方湖において、ウナギ、コイやフナなどを主に漁獲しており、その漁獲方法としては、筒漁、たたき網漁及び柴づけ漁など伝統漁法を継承している。

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

平成 25 年 7 月 30 日

#### (2) 構成員の数と形態

構成員 60 名（内訳：漁業者 32 名、漁業者以外 28 名）

#### (3) 活動延べ人数

72 人（令和 7 年度）

#### (4) 対象地域での活動歴

三方湖東側の船溜まりのある面積約 45ha の清掃と湖面上に倒れている樹木の伐採を 7 月から 12 月にかけて行った。手作業のため回収しきれない大木や大きなヨシの株、自然に帰らないゴミ等もあるが、回収した可燃物については、燃やして処分した。不燃物については、業者に依頼し廃棄処分を行った。12 月・1 月に定点 10 か所で、たたき網漁を行い、コイやフナの漁獲を調べるモニタリングを行った。

### 3. 保全活動の対象範囲

#### (1) 活動場所



三方湖

#### 4. 活動の実施状況及び効果

大雨や集中豪雨により山からの泥水と共に流木やゴミが三方湖に入り、手作業での回収に苦労した。手作業では回収しきれないゴミ（大きなヨシの株や流木、浮き礁の残骸など）も残っている。回収できた湖上のヨシの株は、作製中の浅場造成の水際に植樹を行った。

湖岸上の樹木の伐採も行っているが、まだ多くの樹木が見られる。

モニタリングの結果は、昨年よりもコイ・フナの漁獲が上がり、効果は出てきていると思われる。

##### (1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加人数	使用船隻	備考
R7.7.30	保全活動	湖沼内の清掃	5人	1隻	
R7.8.8	保全活動	湖沼内の清掃	8人	2隻	
R7.8.25	保全活動	湖沼内の清掃	5人	1隻	
R7.9.19	保全活動	湖沼内の清掃	4人	1隻	
R7.9.29	保全活動	湖沼内の清掃	9人	2隻	
R7.10.31	保全活動	湖沼内の清掃	5人	1隻	
R7.11.6	保全活動	湖沼内の清掃	6人	1隻	
R7.11.17	保全活動	湖沼内の清掃	4人	1隻	
R7.11.24	保全活動	湖沼内の清掃	5人	1隻	
R7.12.18	保全活動	湖沼内の清掃	6人	1隻	
R7.12.19	保全活動	湖沼内の清掃	5人	0	
R7.12.1	保全活動	モニタリング	4人	4隻	
R8.1.5	保全活動	モニタリング	3人	3隻	
R8.1.16	保全活動	モニタリング	3人	3隻	

## (2) 活動内容写真



湖内、湖岸の清掃

### 5. 今後の課題と計画

湖内には、ヨシの株の流出や大木等が流れ込んでくる。手作業では回収できない大きなゴミもあり、それらの回収方法が課題である。また、湖面に倒れている樹木もまだ多く見られるので、引き続き地主の方にも協力を得て、伐採を行っていく必要がある。

魚達が住みよい環境となるようゴミのない美しい湖を目指し、継続した保全活動を行っていかなければならない。

### ⑬ 世久見海士組合（若狭町）

#### 1. 組織の概要

本グループの主な構成員は世久見大敷網組合、若狭三方漁業協同組合に所属している世久見地区の素潜り漁師で、主な漁獲対象物はアワビ、サザエ、アカウニ、ナマコ等である。同地区では、古くから定置網漁業が盛んであったが、近年では若手漁師を中心に素潜り漁も地域の重要な漁法となっている。同地区の漁業者の話によると昔と比べ海藻類の繁藻状況が悪くなっており、素潜り漁業への影響が心配されている。本グループは食害生物（ムラサキウニ）の駆除や漂流漂着ゴミの清掃を通じて、藻場等の地域資源の維持・回復を図り、次世代の漁業者に継承する活動を行っている。

#### 2. 活動組織の運営

##### (1) 活動組織の発足年月日

令和5年3月1日

##### (2) 構成員の数と形態

構成員 22名（内訳：漁業者 21名、漁業者以外 1名）

##### (4) 活動延べ人数

131人（令和7年度）

##### (3) 対象地域での保全活動歴

令和5年～令和7年の活動で延べ438人が参加。主な活動は下記のとおり。

浜の清掃活動 … 活動回数 28回 回収量 約 12.2t

食害生物の駆除活動 … 活動回数 9回 延べ人数 68人 約 35,000個（ムラサキウニ）

藻場造成の為に母藻設置

漂流・漂着ゴミによる海洋汚染の教育活動 … 5回 対象：地元小学生

#### 3. 保全活動の対象範囲

##### (1) 活動場所



海洋汚染等の原因となる

漂流、漂着物、堆積物処理 1.0ha



藻場の保全 4.0ha

■ : 活動区域 200m×50m 1.0ha 4か所

✕ : モニタリング定点 5か所

#### 4. 活動の実施状況及び効果

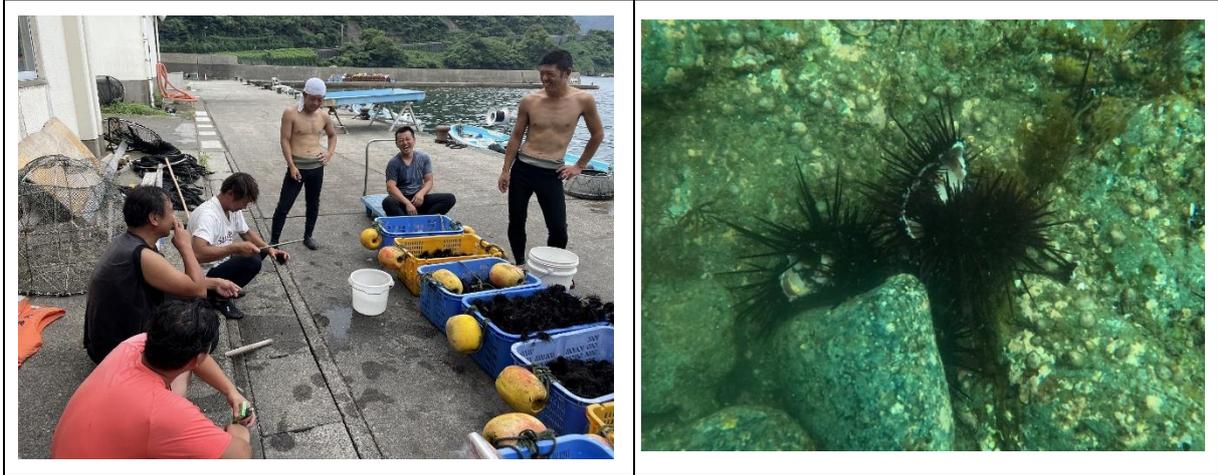
##### (1) 本年度の活動状況

実施日	活動項目	活動内容	参加人数	備考
5月1～3日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	9人	重機による浜清掃活動 計3回、延べ9人
5月12日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	1回目
5月19日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	2回目
5月26日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	4人	3回目
6月2日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	4回目
6月9日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	5回目
6月11日	藻場の保全	モニタリング	3人	
6月通月	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	16人	重機による浜清掃活動 計10回、延べ16人
9月8日	藻場の保全	母藻の設置	11人	
9月8日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	7人	1回目
9月15日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	6回目
9月18日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	8人	2回目
9月22日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	6人	7回目
10月6日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	8回目
10月27日	漂流、漂着物処理	海岸の漂着物の除去、清掃	5人	9回目
11月5日	藻場の保全	ムラサキウニ駆除	5人	3回目
10月6日	漂流、漂着物処理	学習・教育(講座)	18人	梅の里小学校 生徒14名+先生3名
10月13日	漂流、漂着物処理	学習・教育(講座)	8人	梅の里小学校 生徒6名+先生1名

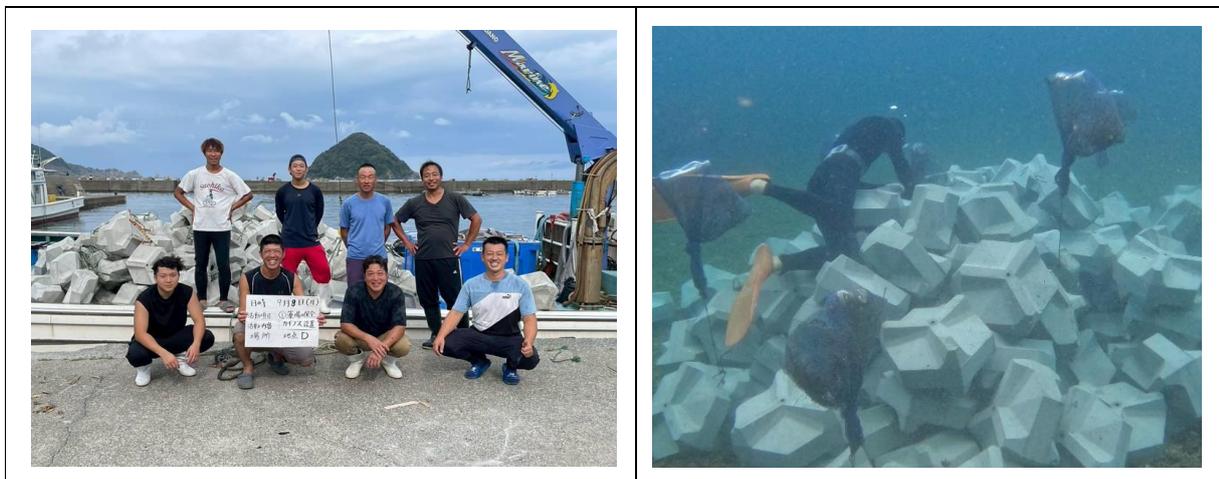
##### (2) 活動内容写真



漂流・漂着物の清掃活動



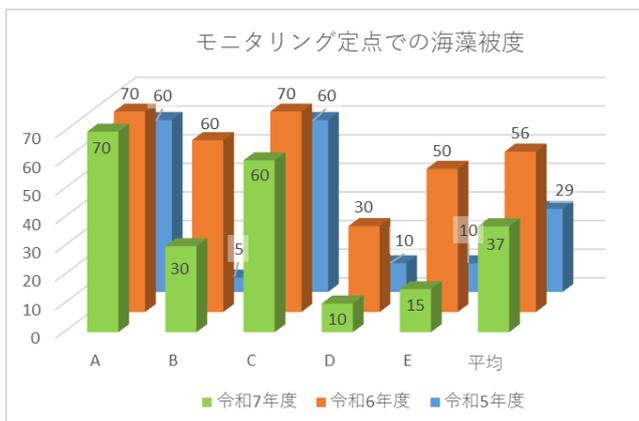
食害生物(ムラサキウニ)の駆除活動



藻場造成のための母藻設置

### (3) 保全活動の効果

前述の保全活動歴の通り漂流・漂着ゴミ清掃活動では3年間で約12.2tのごみを回収している。また、食害生物の駆除活動でも3年間で約35,000個を駆除している。モニタリングの結果、前年度は海藻がよく繁藻しており効果を実感していたところであったが、今年度はあまり繁藻していなかった。しかし、活動を始めた令和5年よりは海藻は増えており、潜水漁師達の感覚としても海藻が増えているとの事だったので確実に効果はあると信じて活動を続けていきたい。



繁殖してきた海藻

## 5. 今後の課題と計画

近年、同地区では海藻の繁藻状況が悪く地肌が見えている転石も多くみられた。一方で食害生物（ムラサキウニ）の数は数えきれないほど多い状況である。依然として食害生物の数は多いものの、海藻は少しずつ増えているように感じているので、今後も活動を継続し豊かな海を次世代に繋げていきたい。

### ⑬ 小浜市海のゆりかごを育む会（小浜市）

#### 1. 地域の概要

福井県南西部に位置する小浜市は、日本海の恩恵を受け、地区ごとの特性を活かした多様な養殖業（牡蠣、ふぐ、鯛、ワカメなど）が行われている。

最近では、海水温の上昇やウニの食害により、海藻が消失する「磯焼け」が進行しており、海藻を主食とするアワビやサザエなどの生息域が変化している。漁獲量全体を見ても減少傾向であり、漁業経営の環境は厳しくなっている。

#### 2. 活動組織の運営

##### (1) 活動組織の発足年月日

平成 29 年 3 月 1 日発足 活動 9 年目

※平成 25 年発足の海のゆりかごを育む会と平成 15 年発足の小浜市豊かな海の森を育てる会が合併し、当会を発足した。

##### (2) 構成員の数と形態

構成員 408 名（内訳：漁業者 250 名、漁業者以外 158 名）

##### (3) 活動延べ人数

121 人（令和 7 年度）

##### (4) 対象地域での保全活動歴

仏谷においてアマモ場の保全活動、全域においてウニの密度管理や母藻・藻場増殖礁の設置などの藻場保全活動と海岸漂着物の回収、及び教育・学習活動を行っている。

#### 3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

##### (1) 活動場所（藻場保全：9.69ha 海岸漂着物：5.0ha）



## (2) 対象資源の現状・課題

海水温の上昇やウニの食害により、海藻が消失する「磯焼け」が進行している。加えて、台風や冬季の波浪による、海岸漂着物が様々な活動の妨げとなっている。

## 4. 保全活動の実施状況及び効果

### (1) 藻場の保全

#### ①アマモ場保全

前年度、初めて湾口側にゾステラマットを設置してみたが、モニタリングでは、アマモは数本程度しか発芽しておらず、波浪の影響も大きいことがわかった。他方、アマモは残っていないと思われていた内湾で、自然に発芽したアマモが小規模な一年草のアマモ場を形成していた。そのため今年度は、その周辺に種子を泥で包み投入した。

#### ②ウニの密度管理

仏谷・矢代地区でウニ駆除を計4回実施した。仏谷では磯焼けはパッチ状で周辺に藻場は残っているが、矢代では磯焼けの範囲が広がり藻場の衰退が甚だしいため、ロープに付けた海藻種苗（クロメ）の投入も試験的に行い、成長具合を観察している。

#### ③母藻・藻場増殖礁の設置

ノコギリモクなど母藻を付けた小型の藻場増殖礁15基を2か所（志積7基、田鳥8基）に設置。宇久では牡蠣殻マットに母藻を付けて設置をした。宇久は今回初めての設置であるため、今後の推移を見守る。

### (2) 海岸漂着物の回収

各集落に回収用フレコンバッグを配布し、集落単位での回収活動を行っている。フレコンバッグを配布しておくことで、一斉清掃だけでなく、日常的な回収作業も行っている。また、時化による漂着物についても可能な範囲で回収を行った。

矢代地区では、岩に挟まったり砂に埋もれたりして長年放置されていた漁網やロープ、漁具などを重点的に取り除いた。

### (3) 教育・学習活動

近年、漂着ごみについての関心が高まり、学校からの問い合わせや依頼が多い。今年度は市内の中学校2校で出前講座や探究学習へのアドバイスをを行った。

また、藻場保全対策現地講習会を小浜市で開催し、若狭地域の漁業者や高校生に市内で取組やすい藻場保全の方法を知ってもらった。

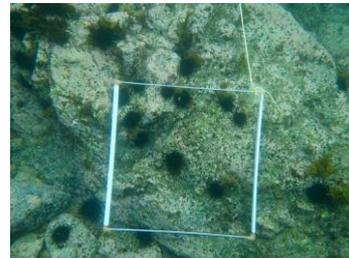
### (4) 活動実施状況（1月末まで）

実施時期	活動項目	活動内容	人数（人）	備考
R7.6	海岸漂着物	海岸漂着物回収	20	田鳥
R7.6	藻場の保全	アマモモニタリング	5	仏谷
R7.7	藻場の保全	藻場モニタリング	9	矢代
R7.8	藻場の保全	ウニ駆除	1	仏谷
R7.8	藻場の保全	藻場調査	4	矢代・志積
R7.8	藻場の保全	ウニ駆除	1	仏谷
R7.8	藻場の保全	ウニ駆除	1	仏谷
R7.10	藻場の保全	ウニ駆除	6	矢代

R7.10	藻場の保全	クロメの播種準備	6	矢代
R7.10	海岸漂着物	海岸漂着物回収	4	矢代
R7.10	藻場の保全	クロメの播種準備	8	矢代
R7.10	藻場の保全	藻場保全講習会運営	4	県漁連小浜支所
R7.10	海岸漂着物	海岸漂着物回収	2	矢代
R7.10	海岸漂着物	海岸漂着物回収	3	矢代
R7.10	海岸漂着物	海ごみ学習	1	小浜第二中学校
R7.11	藻場の保全	クロメの播種	7	矢代
R7.11	海岸漂着物	海岸漂着物回収	3	矢代
R7.11	藻場の保全	母藻の設置準備	3	宇久
R7.11	藻場の保全	母藻の設置	3	宇久
R7.11	海岸漂着物	海岸漂着物回収	3	矢代
R7.11	海岸漂着物	海ごみ学習	2	小浜中学校
R7.12	藻場の保全	アマモ播種	9	仏谷
R7.12	藻場の保全	母藻の設置	4	志積
R7.12	藻場の保全	母藻の設置	8	田鳥
R7.12	藻場の保全	地域講習会	4	福井市

(5) 活動内容写真

①藻場保全



アマモ場とガラモ場でモニタリングを実施



潜水によるウニ駆除

②海岸漂着物の回収



これまで回収作業を行っていなかった場所での実施

### ③教育・学習活動



漂着物学習



藻場学習

## 5. 今後の課題と計画

アマモ場に関して、内湾でアマモは発芽しても一年で枯れてしまい、多年草でのアマモ場造成は難しいため、今後は今年度見つけた一年草アマモ場の周辺に毎年種子を投入し、核藻場として広げていこうと考えている。

藻場保全に関しては、これまで広範囲に漠然と活動を広げていたが、今後は講習会で教えていただいた内容をもとに、ウニ駆除や母藻・海藻種苗の投入などを範囲を区切って実施し、モニタリングなどで活動効果の検証をしながら進めていきたい。

漂着物の処理については、引き続き各集落でクリーン作戦時や年間を通じて回収してもらおうほか、特に漂着が目立つ地区においては、一般市民や生徒・学生の回収作業への参加を呼びかけながら進めていきたい。

教育・学習活動についても、探究学習など学校からの依頼に応じて進めていきたい。

## ⑭ 南川ラインレスキュー隊（小浜市）

### 1. 地域の概要

南川は2級河川で天然の鮎も遡上する豊かな川だが、最近山から流れ出る土砂等が鮎の成育にも影響を及ぼしている。また、草や木が生い茂り、景観の悪化から危険な場所という認識やゴミの不法投棄に繋がっているのが現状である。

現在、河川組合員等の漁業者も高齢となっており、良好な河川を次世代につなぐために、川を守りたいという機運を盛り上げることが急務である。現代の子ども達は南川で遊んだ経験がなく、このままでは良好な川を次世代につなぐ者がいなくなるのではという危機感から過去に遊んだ記憶のある有志が集まり美化活動と教育活動(体験)を開始した。

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

平成29年2月7日発足 活動9年目

#### (2) 構成員の数と形態

構成員100名（内訳：漁業者15名、漁業者以外85名）

#### (3) 活動延べ人数

336人（令和7年度）

#### (4) 対象地域での保全活動歴

南川で、ヨシ帯の保全活動、川のごみ清掃、水質調査、モニタリング及び小学生を対象とした教育学習を実施している。

### 3. 活動の実施状況及び効果

#### (1) 河川のごみ清掃・草刈り

年間2回実施。構成員の活動がしにくい状況もあり人数を制限して実施。活動エリアにおいて例年の作業実績により不法投棄のごみの量が減少しつつある。また、例年外来植物の除去を行っているエリアでは、外来種の植物が減ってきており、効果が出ている。

#### (2) 教育活動

南川流域にある今富小学校において学年を固定して座学と現地学習を交え、年間を通し総合的に活動を実施して9年目。草刈りやゴミ拾い、水辺の安全講習、水質調査、生き物調査、鮎の捕獲方法や鮎の実食体験を専門家の協力を得て理解を深めている。

その年の学習の方向性などを踏まえ、児童の学びの意欲を引き出した取り組みとなっていることで自発的な行動に結び付いている。成果として南川環境や生息する生物の生態など学んだことを後輩や保護者に発表し、南川環境保全の意識拡大につなげている。

#### (3) 水質調査

水温や水質、透明度の調査、試薬を使ったCOD等の測定を実施。測定日は雨天後ということもあり透明度が60cmであったが、後日の生き物調査の体験時に再度測定し透明度100cmを確認。数値的に良好な川であると実感できた。

#### (4) モニタリングについて

水生生物による環境指標で南川の状態は良好であることが確認できた。生き物の特性を知

ることで河川と海のつながりを実感することができた。

(5) 活動実施状況

実施日	活動項目	内容	場 所	人数 (人)	内 容
5月7日	ヨシ帯保全 内水面保全	草刈り ゴミ拾い 水質調査	南川左岸	67	草刈り、ゴミ拾い、外来植物除去、水質調査を実施 【今富小学校も参加】
6月20日	教育活動	安全講習	南川流域	66	専門家から南川で体験する際の安全管理講習 【今富小学校】
7月3日	教育活動	生き物事前学習	今富小学校	64	専門家による川の成り立ち、水生生物座学 【今富小学校】
7月4日	ヨシ帯保全 内水面保全 教育学習	生き物調査 モニタリング	南川左岸	67	水生生物を採集し、モニタリング 【今富小学校も参加】
8月4日	内水面保全	モニタリング	南川流域	1	鮎を投網で捕獲し、モニタリング
9月3日	内水面保全	モニタリング	南川流域	1	鮎を投網で捕獲し、モニタリング
9月26日	教育活動	ゴミ拾い &草刈り 鮎の実食体験	南川左岸	68	川漁師に学ぶ漁具と使い方、鮎の観察と実食。環境美化活動【今富小学校】
11月13日	ヨシ帯	モニタリング	南川流域	2	ドローンで空中からヨシの被度をモニタリング

(6) 活動内容写真



ヨシ帯保全活動、ごみ拾い



モニタリング(生き物調査)



小学校教育活動(生き物座学)

#### 4. 効果とこれまでの活動を振り返って

南川をフィールドに一年を通して総合的に環境学習に取り組むことにより、子ども達が自主的にゴミ拾いをする姿が見られるなど環境保全に対し意識の醸成が生まれていると感じている。

学習に取り組んできた子ども達が保護者や後輩へ向けた活動発表の中で南川の豊かさや魅力・環境を守っていくことの大切さを伝えることは、活動が受け継がれる大きな要素であり、子ども達の積極的な活動や学びの意欲は保護者や地域への啓発にも役立っている。

9年間活動を継続できたことは、先生方の理解と協力のもと小学校との連携で取り組めたことであり、令和5年には環境ふくい推進協議会より学校部門で環境保全活動の表彰を受けた。延べ500人を超える児童が各分野の専門家や川漁師より直接学ぶ機会を得られたことは、理解を深めるうえで極めて有意義であり、本事業の質を高める大きな支えであった。この一過性の体験に終わらない経験は、豊かな南川を守る未来のラインレスキュー隊につながると信じている。

本事業は今年度で一区切りになるが、これまで育まれた環境への理解と関心が、今後も環境保全意識の醸成や良好な環境維持に活かされていくことを期待し、現時点では規模を縮小しつつも活動を継続できるような仕組みづくりを考えていく。

## ⑮ おおい町大島地区の海を守る会(おおい町)

### 1. 地域の概要

大島地区は漁業が盛んな地域であり、種苗放流やウニ駆除など資源保全・確保に努めているが、近年のサザエ・アワビの漁獲量は低下傾向にあり、漁業経営は厳しい状況となっている。

### 2. 活動組織の運営

(1) 活動組織の発足年月日

令和4年2月25日

(2) 構成員の数と形態

構成員72名(内訳:漁業者60名、漁業者以外12名)

(3) 活動延べ人数

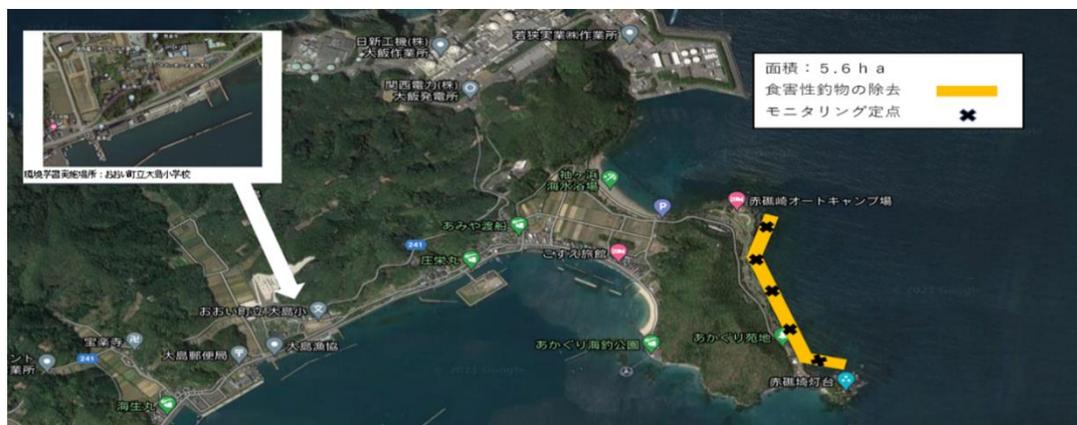
83名(令和8年1月30日時点)

(4) 対象地域での保全活動歴

大島長浦周辺において、ムラサキウニの密度管理や駆除、大島地域の小学生に環境学習を実施した。

### 3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

(1) 活動場所(長浦 藻場保全面積5.6ha) 環境学習(大島小学校)



(2) 対象資源の現状・課題

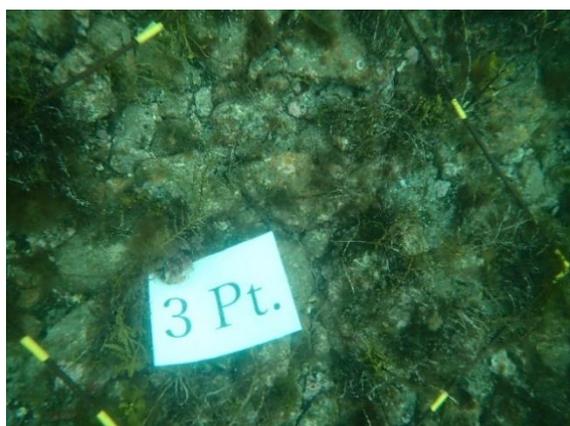
近年、大島長浦周辺では目視で確認できるほどのムラサキウニの大量繁殖によって、藻場が荒らされておりサザエ・アワビの餌場が減少している。それに伴い漁獲量も減少し、今後の資源確保が課題となっている。

#### 4. 活動の実施状況及び効果

##### (1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R7.6.9	モニタリング	藻場状況の確認	4名	大島長浦
R7.6.22	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	27名	大島長浦
R7.7.2	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	26名	大島長浦
R7.7.31	保全活動	藻場の保全事業 (有害生物の除去)	21名	大島長浦
R7.10.4	教育活動	藻場環境学習	5名	大島小学校

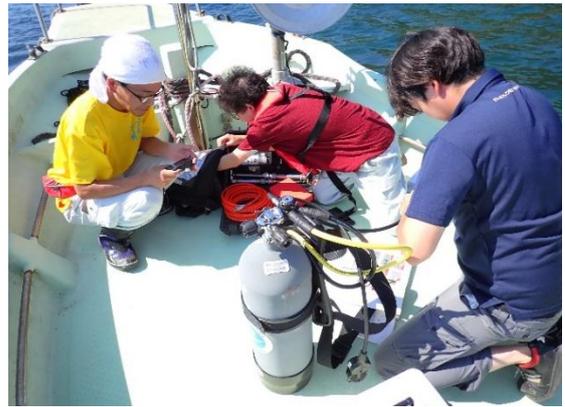
##### (2) 活動内容写真



モニタリング



有害生物(ウニ)の除去



有害生物(ウニ)の除去



活動参加者



活動参加者



教育学習

### (3) 効果

4年目を迎えた今回、前年度の課題の一つである高齢化対策としてユニバスターをレンタルした。高齢の漁業者に実際に使用してもらったところ、力は少なくて済むが、使用するまでの段取りや機器が重たいこと、ハンマーで割るよりも駆除数が減少したことなど、あまりフィットしない感想が多かった。しかし、前述どおり力は求められないので今後、機器使用の改善などを行えば高齢化対策の一助になるのではないかと感じた。

## 5. 今後の課題と計画

保全活動により1歩ずつではあるが、海の環境は良化しているように感じる。前年度の課題でもあった高齢化は進んでいるのも現状である。回を重ね、作業効率は上がってきているが、マンネリ化しないよう「海を守る」という初心を忘れず活動を継続していきたい。

## ⑯ 若狭高浜ブループロジェクト（高浜町）

### 1. 地域の概要

若狭高浜ブループロジェクトの主な構成員は、若狭高浜漁業協同組合に所属しており、様々な漁業が盛んである中、サザエ・アワビ・アカガイの種苗放流等も行っており、年間を通じて藻場の恩恵を受けている。

### 2. 活動組織の運営

#### (1) 活動組織の発足年月日

令和2年2月10日

#### (2) 構成員の数と形態

構成員 159名（内訳：漁業者 145名、漁業者以外 4名）

#### (3) 活動延べ人数

令和2年度 53人

令和3年度 46人

令和4年度 28人

令和5年度 32人

令和6年度 40人

令和7年度 44人（令和8年1月30日時点）

#### (4) 対象地域での保全活動歴

高浜町では、「若狭高浜ブループロジェクト」が主体となって、継続的に保全活動の計画づくり、モニタリング、藻場の保全活動として、有害生物の除去（ムラサキウニの駆除）や母藻の設置活動を実施してきた。また昨年度と同様にワカメの種苗糸を使用し、母藻の設置を行なった。

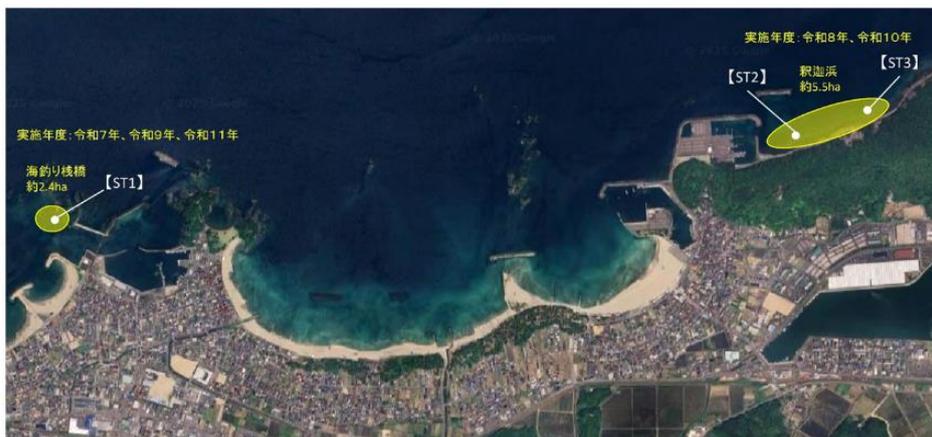
### 3. 保全活動の対象範囲と対象資源の現状・課題

#### (1) 活動位置（高浜地区・和田地区藻場面積：7.9ha）

##### 保全活動対象範囲(7.9ha)

● 活動範囲

○ モニタリング位置



(2) 対象資源の現状・課題

近年、藻場の減少が深刻化しており、その原因となっているのは十数年前より大量繁殖したムラサキウニによる食害である。本年度の活動位置であるの高浜地区鷹島周辺等は、目視でも確認できるほどのムラサキウニに埋め尽くされている。十年前にはウニ漁も行っていたが、現在は行っておらず、ムラサキウニは増加の一方であり、サザエ・アワビ等の餌となるホンダワラ類を中心に減少しているため、次世代漁業者に向けた水産資源の維持・確保が課題となっている。

4. 活動の実施状況及び効果

(1) 本年度の活動実施状況

実施日	活動区分	活動内容	参加者数	備考
R7.7.28	モニタリング	藻場状況の確認	6名	高浜地区・和田地区
R7.7.31	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	6名 3,760個	高浜地区鷹島周辺
R7.8.19	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	6名 3,650個	高浜地区鷹島周辺
R7.9.1	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	4名 2,250個	高浜地区鷹島周辺
R7.9.2	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	5名 2,950個	高浜地区鷹島周辺
R7.9.3	保全活動	藻場の保全活動 (有害生物の除去)	7名 4,140個	高浜地区鷹島周辺
R7.12.9	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	3名	ワカメの種苗糸設置準備
R7.12.23	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸設置準備
R8.1.7	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	2名	ワカメの種苗糸設置準備
R8.2 活動予定	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸設置準備
R8.2 活動予定	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸設置準備
R8.2 活動予定	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸準備
R8.2 活動予定	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸設置
R8.2 活動予定	保全活動	藻場の保全活動 (母藻の設置)	5名	ワカメの種苗糸設置

(2) 活動内容写真



「藻場の保全」活動参加者



定点モニタリング



有害生物の除去



母藻の設置(設置準備)

### (3) 効果

「水産多面的機能発揮対策」活動により、藻場に有害なウニの除去を行った結果、目に見える範囲で藻場の環境は活動前と比較すると僅かだが改善傾向にあると思われる。また、ウニを除去するだけでなく、利活用をすることで有害生物とされていたムラサキウニへの意識を変えることができた。今後も継続していくことでより効果が期待される。

## 5. 今後の課題と計画

十数年前には豊かだった藻場は水産資源を確保する上では必要不可欠であり、「水産多面的機能発揮対策」活動を継続して行い、良漁場の回復に努めていきたい。また引き続き交流の場を広めていき、様々な団体と連携しながら藻場保全や体験学習にも取り組み、綺麗な海を守り、海の恵みと一緒に豊かな地域を作っていきたい。